

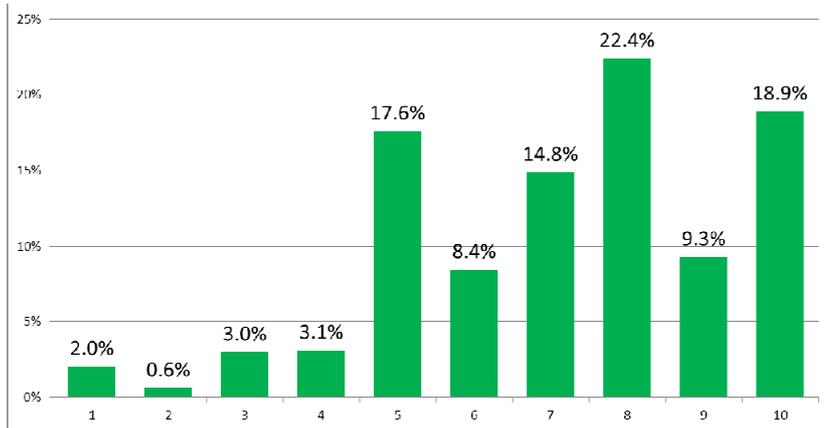
アクティブラーニングにおけるアンケート調査の結果とその成果

花咲徳栄高等学校 Active 推進委員会

～AL 意識調査の結果～ 集計対象：全校生徒

～生徒の AL 意識～

Q1. AL とは「生徒が能動的・主体的に学習に取り組むこと」を指しますが、その実践をすること自体をどう思いますか？ 10段階で評価してください。

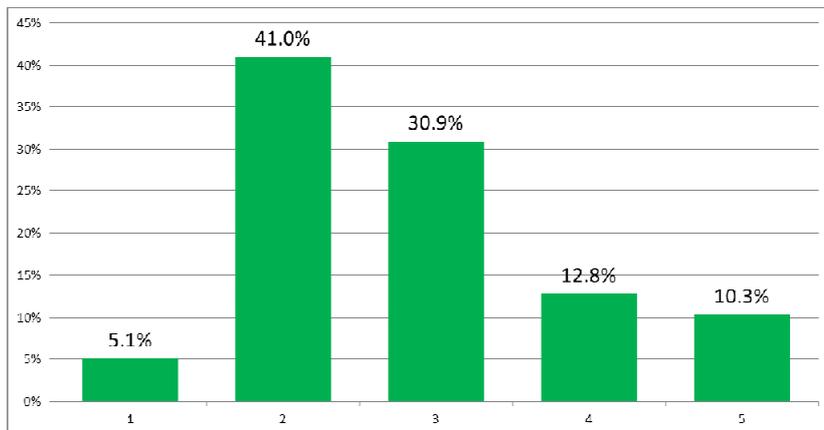


全体的に5以上が大半を占めており、興味関心高い傾向にあります。

1学年から高評価が得られている状況があり、期待度の高さがうかがえます。

Q2. あなたが「Active Learning を意識して学習する」＝「主体的に学習する」頻度はどれくらいですか？

1 ほぼ毎日 2 だいたい授業の日 3 授業の日でも時々 4 ほとんどない 5 全くない

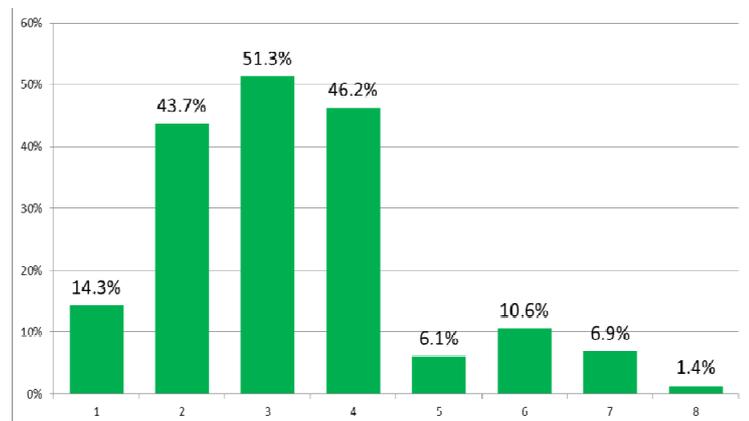


授業のあった日にうまく AL 取り入れて学習しているようです。

分野や学習内容によって、自主学習と AL を使い分けているという意見もありました。

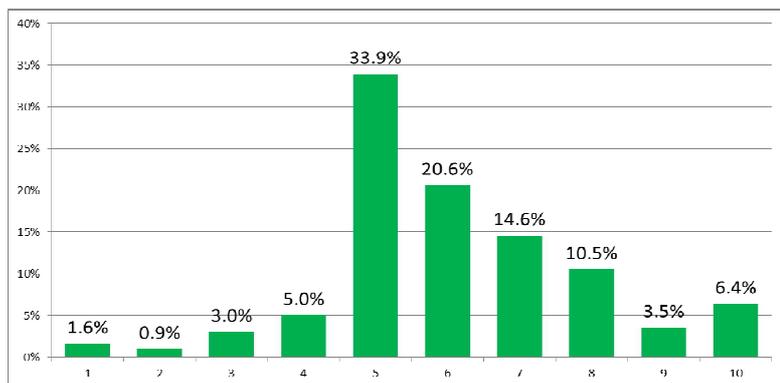
Q3. Active Learning の取り組みについて、あなたの状況を教えてください。（複数回答可）

- 1 仲間に貢献するための準備を行っている(予復習)
- 2 講義をしっかり聞き、授業中の課題に積極的に取り組んでいる
- 3 仲間の発言をよく聞いている
- 4 話し合いに参加している(発言している)
- 5 話し合いに参加するよう仲間を励ましている
- 6 全体を意識し、主体的に活動に参加している
- 7 Active Learning を実施できていない
- 8 その他



発言し、仲間の発言を聞いて課題に取り組むという AL の基本が身についているようです。今後は、予復習の強化や発言の活性化に向け意識を高めてもらいたいです。

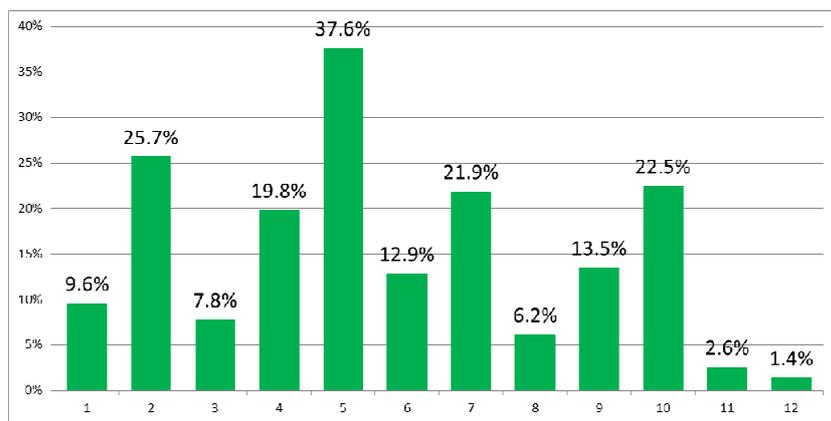
Q4. AL によって、あなたの学習習慣や学習意欲に変化はありましたか？10 段階で評価してください。



「自分も頑張らなければという気持ちになった」「もっとできるようになりたいと思った」という変化を示す生徒がいる一方、「人に頼りすぎてしまう」という意見もありました。

Q5. Active Learning を実施して、実感している効果はありますか？（複数回答可）

- 1 主体性が身についた
- 2 協調性がはぐくまれた
- 3 予習・復習の習慣がついた
- 4 問題解決のスキルが身についた
- 5 コミュニケーション能力が高まった
- 6 状況判断・意思決定ができるようになった
- 7 授業が分かるようになった
- 8 学校の成績や模試の成績が上がった
- 9 学習意欲が高まった
- 10 特に効果を実感していない
- 11 Active Learning を実施できていない
- 12 その他



AL を実施するにつれて、一人では養えないコミュニケーション力や協調性、問題解決スキルが養われているようです。また、効果を実感していないという生徒も見受けられ、今後の展開に工夫が必要だと感じました。

～アンケート結果の総括～

AL に関心を持っている生徒が多くいる(Q1)ものの、実際にあまり実施できていないという生徒(Q2 で4・5を回答)が2割、そして今後「AL をやってみよう」と思う生徒は9割近くいる(Q8)ことが分かりました。自由回答欄には「AL の効果があるかわからない」などがあり、AL のやり方や取りませ方にも、工夫が必要だと感じました。偏差値や順位にはあられるものではないかもしれませんが、「コミュニケーション能力」「学習意欲」「協調性」などが高まったと感じている生徒がいる(Q5)ことは、AL に期待されている効果が出ていると思われます。一方で、「特に効果を実感できていない」という生徒も2割近くいます。社会に出てから求められる資質の向上を、授業の中で目指していくというAL の目的を忘れずに、根気強く取り組むことも必要です。

～改善案と今後の活動～

今後も継続して実践していくなかで、AL の形を生徒の実情にあわせて柔軟に変化させていくことが、さらなる飛躍につながるのではないのでしょうか。単元によっては説明や補足を加えたり、入試問題の傾向を解説したりすることで、より生徒の意欲をかき立てることができると思います。特に、授業ごとにリフレクションカードで生徒の意見を吸い上げ、枠にとらわれない多面的で生徒のニーズに応じた展開をしていくことは、具体的な改善案の1つではないのでしょうか。

近年の模試の結果を分析すると、本校生徒の長文読解や記述の解答率が上昇しています。これはAL で学んできた成果のひとつであり、学力や意欲の向上がうかがえます。また、コミュニケーション能力が上がり、面接や小論文が強化され、推薦入試での合格にもつながっていると考えます。このように、2020 年度から始まる大学入学共通テストに向けて、記述や表現への対応に今後はより一層力を入れていきたい点です。大切なのは、生徒が主体的に学習していくための工夫です。今後も継続して、取り組んでいきたいと思ひます。